

2024年8月6日

【代表談話】 広島原爆の日を迎えるにあたって

立憲民主党代表 泉健太

この世の地獄を生み出した忌まわしき原子爆弾。その原子爆弾が広島に投下され、79年が経ちました。犠牲となられた方々に哀悼の意を表し、ご遺族や被爆の後遺症に今なお苦しんでいる方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

昨年は、広島サミットにおける原爆被害の実相の発信をはじめ、核兵器禁止条約が発効し、締約国会議が毎年開催されるなど「核兵器のない世界」への国際意識の高まりがみられました。

一方で、核兵器使用をほのめかして威嚇しつつ、ウクライナ侵略を継続するロシアや、米議会公聴会において、広島・長崎への原爆投下を引き合いにガザ地区への核攻撃を容認するような政治家の発言がありました。こうしたことは断じて容認できません。

立憲民主党は、国際社会における、核不拡散体制堅持の一層の重要性を認識し、核兵器に関する透明性の確保、核保有国の核軍縮を求め、さらに核兵器禁止条約締約国会議へのオブザーバー参加等を目指し、努力を続けます。核保有国と非核保有国の橋渡しに全力で取り組み、国際社会が分断を乗り越え、核兵器廃絶へ向けて前進できるよう努力を続けます。

すべての「黒い雨」被爆者への速やかな救済を含め、被爆者援護施策の一層の充実、また「語り部」の方々への支援等により、原爆の惨禍や被爆者の方々の思いを次世代に引き継ぐとともに、日本が国際社会の先頭に立って「核兵器のない世界」の実現に向け、全力を尽くすことをここにお誓い申し上げます。